

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助実習		選択	6	3.4	冬春季・夏季 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
梅沢 佳裕	B310	y.umezawa		水曜日 12:10～13:00	

授業の目的・概要	<目的> ソーシャルワーカー（社会福祉士）として求められる総合的な対応能力を習得することを目的とする。 <概要> ソーシャルワーカー（社会福祉士）に必要な専門知識、専門技術、関連知識の内容についての理解を深める。また、実践現場で実際に活用し、相談援助業務に必要な資質、能力、技術を体験的に体得することを目指す。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク
学習上の助言	社会福祉士国家試験科目および相談援助演習での学びを実践的に学ぶため、関連づけて復習しておくことが望ましい。				
教科書	ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習/監修：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター/中央法規出版。学外実習の手引き（学内発行）。				
参考書	特になし。				
外部教材	特になし。				

学生が達成すべき行動目標		関連卒業認定・学位授与方針
①	実習施設、利用者、地域の状況について説明できる。	HSU(1)、WP(1)
②	ソーシャルワーカー（社会福祉士）が職種として担っている業務について説明できる。	HSU(1)、WP(1)
③	実習施設、関連機関、地域におけるソーシャルワークについて説明できる。	HSU(4)、WP(3)
④	自己覚知を深める。	HSU(6)、WP(4)
⑤		
⑥		

授 業 計 画	
・厚生労働大臣が定める実習施設および事業所において、23 日間かつ 180 時間以上の実習を行う。 ・相談援助実習を通して、相談援助にかかる専門的な価値、知識、技術を具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ・実習前教育、実習中教育、実習後教育という継続的かつ一体的な指導を受ける。特に、実習中は、実習指導者による指導、そして、担当教員による巡回指導および帰校日指導を受け、実習での取り組みを振り返り、考察しながら、学びを深める。 ・実習記録（実習日誌、実習報告書）を作成し、提出する。	
必要時間（単位：時間）：180	

学習課題・学習時間	
・毎日実習での取り組みを振り返るとともに実習記録（実習日誌）を作成し、翌朝実習指導者に提出する。 ・現場実習で関連があった領域や法律について調べ学習を行うこと。	
必要時間（単位：時間）：90	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	70	30	0	0	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	15	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	20	0	0	0	20
	取組みの姿勢・意欲	0	30	0	0	0	30
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	毎日その日の実習での取り組みを振り返り、考察し、実習日誌に記載する。これらをもとにして、実習の取り組みおよび成果等について評価する (70 点)。				個別にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	実習報告会に向けた準備を行い、報告会にて報告する。「実習報告書」「報告用資料」および「報告会での報告」により評価する (30 点)。				個別にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	渡邊隆文、田村正人						
教員の実務経験	梅沢佳裕：ソーシャルワーカーとして7年の実務経験。渡邊隆文：社会福祉士取得後6年の臨床経験。田村正人：社会福祉士として認知症高齢者や知的障害者、精神障害者の成年後見人の受任や障害者の権利擁護法人の運営をして8年の実践経験						
実践的授業の内容	教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。						
そ の 他	社会福祉士取得希望者は必ず履修すること。 止むを得ず遅刻・欠席する場合は、しかるべき手順を踏んで対応すること。						